



議 会

によどがわ

だより

2007.8
第8号

台風四号の「つめ跡」

十八年七月二十七日の豪雨災害から三回目の崩壊
峯岩戸住民は長期間不便を強いられている

(町道寺村峯岩戸線)



六月定例会

茶畑の荒廃が進んでいるが…4P

地上デジタル放送への対応は…8P

スクールバス事故

判決に口出しはできないが…11P

春の叙勲おめでとう…12P

ここが聞きたいQ&A…14P



いきいきわくわく体験事業(7月19日~21日・名小)「柏島」

高知県仁淀川町議会

TEL 0889 (35) 0111 / FAX (35) 0571 / 発行人: 議長 橋本真一 / 編集: 議会だより特別委員会 / 印刷: 資佐川印刷所

一般質問

平成19年6月定例会は、12日に招集され、会期を13日までの2日間とし、12日、諸般の報告（議長、町長、教育長）、常任委員長報告、議案の上程、提案理由の説明、一般質問。13日、一般質問、議案の審議、討論・採決を行い報告6件、議案4件を原案どおり可決。国保運営協議会委員の推薦、県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙を行い、意見書3件、決議1件を可決、閉会した。

あなたに代わって

聞きました

感じだ。保存・継承のために説明板設置の考えはないか。

答

教育長

いずれも特徴的な建造物で貴重な存在であり、地域の財産として保護し、次の世代に継承しなければならぬ。見学する時の説明板設置は大切で、教育利用や観光資源としても貴重なもので、町長部局と相談し、看板の設置を考えたい。

問

福原克彦

文化庁登録有形文化財に両橋が登録されている。久喜橋は瀬がきつい

のでアーチ形式を採用し、川口橋は橋脚に綿密なレンガ積み化粧の貴重な文化財で、両橋とも町の誇るべき宝だが、文化財の扱いを受けていない

久喜橋・川口橋に
説明板の設置を

答 町長部局と相談して



16年文化庁有形文化財に登録された久喜橋



レンガ積みが施された川口橋（17年文化財登録）

問

福原

説明板のある四万十町の橋に行つての実感だが、登録有形文化財であることを、町全体に波及させることも大事と思うが。

答

教育長

問

福原

指定文化財などのパンフレットも利用し、広く町民・町外の方にも知ってもらう活動を、機会あるごとにしていきたい。

国内では、唯一無二の沈下橋と思われる久喜橋を、コンクリート工学の権威の高知工科大学長に

答

教育長

調査してもらえば、奇跡的な価値がはつきりするとと思うが、調査の依頼はできないか。

保全などの見地も含め、町長部局とも相談し検討したい。

両橋の保全を急ぎ

集客を凶れ！

有利な補助制度を利用して

問

福原

両橋とも昭和十年に建設。72年を経過して劣化が進行し、耐荷性能の減少を来したと推察され、安全性から早急な補修を要する。

昨年九月議会質問の古い主要橋梁の損傷調査状況と関連するが、調査状況と保全計画を聞く。

答

副町長

国、県の助成制度はないのが現状で、目視調査は実施したが、緊急性、利用度の高いものから調査を行い、安全性を確保していく。町の財政事情を考慮すると、有利な制度を活用し計画的に取り組む中で、両橋の保全も

考えなければと思う。

問

福原

両橋とも現役の橋だが、そのまま様子を見るのか、早急に手当をするのか。

答

副町長

専門の見地から指導や提案を受け検討したい。

問

福原

昨年11月高知新聞「声のひろば」に登録有形文化財四橋の投書があった。3月4日付は久喜橋のみで、奇跡的に残された高知県の誇る文化遺産であった。久喜橋から川口橋、高岩橋のルートで人を呼べるのでは。

答

町長

また連携した保全、活用を図ることは町の活性化に資すると思うが。

実際投書の評価には驚いている。この評価は土木学的見地で、観光地のPRをしても集客力に欠ける恐れもある。いの町との連携も視野に入れ、建造物の保全及び他の地域資源との複合的な売り出しを検討したい。



藻が広がり、昔の面影は無い（土居川・長屋）



町内河川の

汚染が進んでいるが

答 水質検査では問題ない

問 片岡政徳

地球温暖化か、雨量も
少なく水温が上がり、町

内河川で昨年までなかつた場所にも藻が広がり、澱み、清流の面影もない。特に長屋堰堤の下流の淵は全て藻に覆われてい

る。土居地区の水道取水場も藻が広がっているが衛生面の問題はないか。今後、主な河川の専門的調査、検査が必要と思

うが対策は。

答 町民課長

家庭排水、林地荒廃で河川の汚染が進んでいる。土居川の水質検査では、各種の基準をクリアしており問題ない。他の河川は検査はしてない

が、土居川と同じ状況と
思う。
川藻の専門知識はないが、水泳する子供たちへの衛生上の問題はないと思

専門的調査、検査は管轄官庁が行うものと考え
る。水質汚濁防止法に基づき、大崎橋、大渡ダム

で実施した検査では基準値をクリアしていると聞いている。

答 池川総合支所長

取水場で藻の発生はあるが、毎月検査もしており衛生上の問題はない。

茶畑の荒廃が進んでいるが

答 関係機関と連携して

問 片岡

町内に多くある茶畑も年々荒廃が広がっている。培ってきた茶畑も人の手が入らなければ伸び放題となる。この荒廃を止めるため、茶畑の状況を調査し、オーナー制度を取り入れる。
Ｉターン、Ｕターンの人などに作ってもらい、谷川の自然水と組み合わせブランド化し販売、販

路を広げていく企画を担当職員を置き進める支援をしてはどうか。

答 町長

本町の茶産業は、価格の低迷、販売力が弱く、生産者の高齢化などで茶畑の荒廃が急激に進行する恐れがある。

町として、生産、販売面の側面的支援が必要と考え、品質の転換や他の産物と併せた地域ブラン

ド化の研究を行っている。また県の支援によるブランド化への取り組みも行っている。
今後、対策、企画は県や関係機関と連携し深める。関係部署で積極的な取り組みを考えている。





野放しの畑が増えたが

答 少量多品目の生産体制を確立して

問 野村安夫

最近、荒れた山林、野放しの田、畑が増えたが確認したことがあるか。今後、増え続け人も住めない状態になっていくと思うが、手だてはあるか。

答 町長

高齢者の生きがい対策として、少量多品目の生産体制を確立推進すること、が、荒廃農地の防止につながっている。山林に關しても各種事業を導入し、基盤の整備、間伐の施業をしている。「森の工場」を設置し、関係機関とタイアップし、山元から加工販売までの流通体制を確立し、環境保全、雇用の場の拡大と地域活性化につなげる。

問 野村

一つの家だが、必要に応じて仕事をしてくれる人を関係機関に配置してはどうか。

答 町長

今、シルバー人材センターなどで労力の提供をしてもらい極力対応している。

年1~2回避難訓練を

答 全町に自主防災組織を配置

問 野村

石川県の地震や、全国の地震発生状況をふまえ、住民避難訓練を年一、二回は実施すべきではないか。

答 町長

町として、消防団や、地域住民と連携して災害



仁淀川町消防団 池川地区大会 (一ノ谷)

問 野村

災害が発生した場合、高齢者及び身体障害者は非常に混乱し避難がスムーズに進まないと思うが。

答 町長

自主防災組織を立ち上げて順次整備していく。

に対応しなくてはならない。その一環として、昨年より旧町村単位で消防団、行政及び地域住民の参加のもと、防災訓練を行っている。本年も九月三地区で行う予定だ。また自主防災組織を平成二十二年三月をめどに、全町に設置する予定で、現在、区長、消防団の協力のもとに、取り組んでいる。



ごみの委託

最低の保障は必要

答 自治法上問題はない



ごみステーション (森)

問

西森常晴

ごみ収集の業者決定までの方法と経過について聞く。

答

町民課長

三月二十八日、五業者で入札を行った。

入札価格は税抜で、大谷組198万円、品原建設169万円、森林組合157万円、

吉永土建150万円で、大谷組が最低価格1190万円で落札した。

問

西森 (常)

予定価格228万円に対し約半値での落札だが、最低制限価格を設けるべきではなかったか。

答

町民課長

自治法上、最低制限価

格設定は義務づけられていない。

問

西森 (常)

委託料は無制限に安ければ良いというものではない。最低限の保障は考えてやるべきだ。

お茶の状況は

答 かんばしくない

問

西森 (常)

今年のお茶の状況は、あまり良い情報は入って

こないが、原因はどこにあるか。

答

産業建設課長

生産量、販売金額共に前年を下回っている。

主な原因は、昨年度より、産地表示が必要となり、他県のお茶が混ざると、高級茶としての販売が難しくなり、静岡市場が高値での買取を控えたことによる。

今後は、消費者に直結した販売ルートの開拓が必要と考える。

問

西森 (常)

対策はとっているか。

答

町長

再三、JAの役員に、金を集めるだけでなく、営農面へ力を入れるよう要請してきた。

これからは、町独自の販売ルートづくりが必要と考える。

マージンは取れるか

答 取れない

問

西森(常)

レンタルハウス事業で事業費からJAがマージンを取ることは法的に可能か。

答

産業建設課長

補助事業でマージンを取ることは許されない。JAに問い合わせをしたが取つてないという返事だ。

読書教育

力を入れているか

答 入れている

問

西森(常)

町内の図書状況は。

答

教育長

小学校五校分の蔵書冊数は3150冊で学校平均630冊。

問

西森(常)

中学校三校分で2233冊、学校平均740冊となっている。貸し出し数は、小学生で月に一人平均6.3冊。中学生2.2冊となっている。

と共に育った子供たちは、自分自身を、他人を大切に、社会に対して

も自身と責任を持って生きていくと考える。今後とも力を入れていく。

議長一ロメモ!

昨年秋より休耕畑を借用、家庭菜園を始めました。

キャベツなど植え付けましたが、虫との戦いもたいへんでした。

野菜作りは先ず土をつくらねばと先輩方のお話を聞き、雑草の刈り取り、石ころ拾い、堆肥などまき耕してみたが作業の厳しい事、大根、白菜、

今春はジャガイモ、ナス、ピーマンなど植え付け収穫を楽しんでいます。自分で育てた野菜の安全が叫ばれています

が、無農薬、有機栽培で消費者の方は求められています。

六月十日に有機栽培の勉強会が池川地区であり私も参加してみました。

畑にソルゴーの種を蒔き二カ月後に刈り取り土の中に混ぜ込むそうです。無農薬、有機栽培で土に触れ、汗をかき、ストレス解消、成人病予防にもなると聞きます。まずは頑張ってみます。

答

教育長

子どもの時期の読書習慣は大切なことだと考える。

読書は、心の土壌を耕し、生きることの意味を深く考える機会を作る。時間や空間を越え、本



読み聞かせ (池川小)